

やあ!

TIA news

やあ!特集

広がる日本語スピーチコンテスト

- | | |
|-----------|-----------------------------|
| とちぎで暮らして… | 斎藤・パトリシア・フラシ・デ・ソウザさん(ブラジル) |
| 世界をペロリ | メキシコ料理「エンサラダ・デ・エスピナカ」 |
| 心に残る私の写真 | JICA教師海外研修2007参加の先生たち② |
| レポート | 「～世界が変わる、私が変わる～」JICAボランティア」 |

世界のスイーツ SWEETS

～メキシコ編～



メキシコには、日本でも一大ブレイクした世界一辛い唐辛子の「ハバネロ」がありますが、メキシコのお菓子はほとんどすべて唐辛子入りみたいで…。写真的スナック菓子ももちろん唐辛子は入っていますが、「レモン」フレーバーになっているので、酸味が利いていてまろやかです。ちなみに「レモン」は、スペイン語では「ライム」を意味するそうですよ。



斎藤・パトリシア・フラシ・デ・ソウザさん(25歳)



プロフィール

ブラジル・エスピリートサント州出身。2003年2月に日本人のご主人とブラジルで結婚し来日。現在、カルチャースクール等でベリーダンスを教えている。県内のフェスティバルなどでも活躍中。

はじめまして。ベリーダンスがお上手だそうですね。
パトリシア でも、私の兄弟は誰もダンスはできないんですよ。私は8歳からダンスを習い始めました。自分に合っているのかダンスは楽しかったですね。14歳のときにベリーダンスを習い始めました。初めての先生は男の人でした。ベリーダンスは10年ぐらい習っている計算になります。姉がマドリッドに住んでいるので、スペインにもプロとしての勉強に1ヶ月ほど行きました。

勉強家なんですね。県内でもいろいろなところで教えられているとお聞きしましたが…

パトリシア 実は教え始めたのは、日本に来てからなんですよ。教えることになったきっかけはフェスティバルで踊ってほしいと頼まれて、一度出演者として踊ったら、それを見に来ていたのかNHK文化センターで教えてほしいとの打診があり、その後はこれを機に、スポーツクラブや公民館などの文化教室で講師



▲パトリシアさんとその生徒さん

度出演者として踊ったら、それを見に来ていたのかNHK文化センターで教えてほしいとの打診があり、その後はこれを機に、スポーツクラブや公民館などの文化教室で講師

として教えるようになったんですよ。長く教えるにつれて生徒さんたちも慣れてきたりして、衣装で着飾る生徒さんや動きを多少習った生徒さんがリードして知ったかぶりをして踊ったりとだんだん変わってきました。でもベリーダンスで一番大切なのは一つ一つのきちんとした動きなんです。

一生活で日本で困ったことはありましたか？

パトリシア 日本に来たころは日本語が分からなくて、苦労しました。当時はいろいろ失敗もありました。冬のある日、宇都宮駅で帰りのバスを待っていたとき、一つの漢字が読めなくて夜までいたこともあります。また、スーパーに買い物に行って、シャンプーと洗剤を買い間違えたこともあります。「ソープ」と書いてあったので、てっきりシャンプーと勘違いしたんです。家に帰って、主人に聞いて初めて間違いに気づきました(笑)。でも、日本の食べ物では困ったことはなかったですね。梅干も納豆もブラジルにいるときは食べたこともなかったのですが、おいしくて大好きになりましたから。

一活躍されているパトリシアさんですが、今後の希望があれば教えてください。

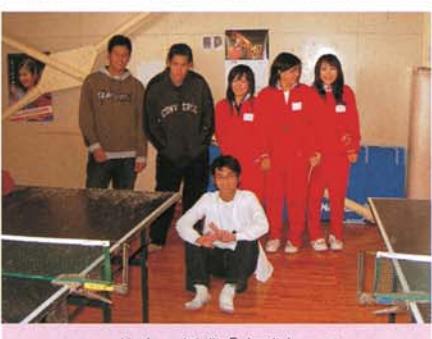
パトリシア 将来は自分で学校を開きたいと思っています。ベリーダンス以外にもオリエンタルダンスやアロマセラピー、リラクゼーションのエクササイズなどを教えてみたいと思っています。のために、今、整体学校に通い、マッサージについて勉強したりしています。体の部位の言葉も学べるので、ベリーダンスを教える時にもかなり役立っています。



▲ブラジル コンペント・ダ・ベニヤでご主人と

立今市高校の高校生宅にホームステイしながら、体験通学を行い、実際の日本の高校の授業にも参加し、高校生との交流も深めた。

また、来日前から楽しみにしていた1泊2日のスキー研修では、9月から来県し研修中の栃木県海外技術研修員と一緒に、初めて見る雪に感動したり、はしゃぎまわったりしていた。最初は、慣れないスキー板をはいて、転んだりしていたが、翌日には滑れるようになっていた。帰ってきた夜から行われた親族の訪問を兼ねたホームステイでは、なかなか会うことのできない親戚と普段できない交流をし、祖父母の思い出話に花が咲いた。また、帰国前日に催された送別会では、ホストファミリーとなった親族をはじめ、体験通学の際のホストでもある高校生らも出席し、大いに盛り上がり、別れを惜しんでいた。



▲体育の授業「卓球」にて

よこそとちぎへ Welcome to Tochigi

栃木県南米移住者子弟短期研修生来県

栃木県から南米に移住した日本人の子女を栃木県に招待し、祖先の育った日本の文化や習慣に触れてもらうプログラムが平成20年1月19日(土)から2月3日(日)の16日間実施された。今回は、団長のカロル ヒロミ 天谷具志堅さんほか3名の高校生がペルー、ブラジル、アルゼンチンの各栃木県会から派遣され、来日した。

県内では、日光東照宮、華厳の滝、日光杉並木などを視察し、県外では、東京・横浜を訪れ、海外移住資料館、東京タワー、浅草などを見学した。その後は、日光市にある県



▲天谷団長(左)と3名の短期研修生

世界の人口を100人の村にみたてて世界の状況をわかりやすく描いた「世界がもし100人の村だったら」の内容をワークショップ形式で学ぶ“国際理解ワークショップ「100人村に大集合！」”を県内3会場（宇都宮会場：11月11日（日）とちぎ青少年センター、足利会場：12月2日（日）足利市立織姫公民館、大田原会場：12月9日（日）栃木県立県北体育館）で開催した。参加者数は宇都宮107名、足利73名、大田原108名で、幼稚園児から高齢者までと幅広かった。ファシリテーターは桜井・法貴グローバル教育研究所代表の桜井高志氏。

参加者は国の状況が記載された役割カードを持つ。カードには①国名、地域、面積、人口、②年齢、平均寿命、③MR 5（1000人中5歳までしか生きられない子どもの数）、④安全な水が飲めるか、⑤教育は受けられるか、識字率、⑥豊かさ、⑦国民総所得のデータ、が記載されている。

ワークショップは、3問の入村試験（世界の人口は？西暦1年の人口は？人口が30億になったのは何年か？）から始まった。その後、紐を用いて床に作った世界地図

で、役割カードに記載された地域に入り、人口密度を実際に体感した。

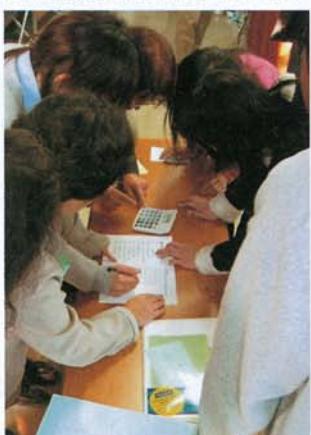
3番目に、二種類の世界地図（メルカトール図法、ピーターズ図法）を見せ、違いを見つけてもらつた。その

後は、年齢の分類、平均寿命、1000人中5歳までしか生きられない子どもの数を確認したりした。

安全な水が飲める国と飲めない国はゲーム感覚で、3種類のペットボトルに入った液体の前に立ってもらい割合を見る。ボトルにはそれぞれ薬、毒などと表示がされているが、マレ一語で書いてあるため解読できない。識字率の高い国の人だけ文字の内容を提示し、もう一度液体を選んでも

らう。水の問題から識字の大切さを知ることができた。最後の世界の富の比較では100個の飴玉を用意し、飴玉を分けるための「計算ゲーム」を行う。先進国には電卓があるためすぐに答えが出るが、発展途上国にはないので必死に計算することになる。世界の不公平さを示すシミュレーションだ。

参加者からは、「学校では学べないことが学べた」「世界の貧富の差を実感することができた」「自分がいかに恵まれた国に生まれたかを感じた」など今回のワークショップに参加して、多少なりとも考え方か変化したようだった。



世界をペロリ

このコーナーでは世界のおいしい食べ物をレシピ付きで紹介します。



今回、料理を作ってくれたのは、メキシコ出身の那須烏山市在住のカスター大久保レイナさん。メキシコ北部でよく食べられているサラダを紹介してくれます。



▲メキシコ風ほうれん草サラダ「エンサラダ・デ・エスピナカ」



①ほうれん草は根を切り、よく洗って水切りし、2~3cm程度に切り、水にさらしておこう。また、バインップルは2cm角、くるみは5mm程度に切つておく。



②ベーコンを1.5cmくらいに切り、フライパンで焦がさないように炒め、油を飛ばす。



③ここで、先ほど切つたほうれんそう、バインップル、くるみを大きなボールに移しかえ、混ぜ合わせる。



④ボウルにオリーブオイル、コンソメ2杯、つぶしたにんにく、マスタード小さじ2杯、醤油大さじ1杯、酢大さじ2杯を加えよく混ぜ合わせ、さきほどのサラダにかけて完成。

広がる日本語 スピーチコンテスト

土屋 孝子さん



(専門学校足利コミュニティーカレッジ教諭・足利市国際交流協会と日本語スピーチコンテストを毎年開催している。)

若い世代の国際交流

このコンテストに応募される方も年々増加し、インターネットで知って、はるばる遠方より参加される方も増えてきました。今年は岐阜県や新潟県から参加される方もいて、中には優勝しなければ連続の参加も許可しているので、今年度うまくいかなかったから再度挑戦される方もいらっしゃいます。



▲スピーチコンテストでの発表の一コマ

このイベントの後には、毎年、スタッフを集めて雑談形式で、反省会をしています。企画から準備から音響、司会など実際の運営まですべて職員らのボランティアで作っているコンテストですので、最初は苦労の連続でしたが、年を追うごとにかなり慣れてきました。それに、ともない、いろいろな意見も始めました。今年多く意見が出たのは、若い世代の人たちも多く参加されている会でもあるので、ぜひ、もっと中高生や大学生など若い世代の人たちにも来てもらって、同世代の外国人が日本の社会や文化についてどのように考えているか知ってもらいたいということです。お互いの国をよく知る機会でもあり、外国文化の比較もでき、生の国際交流が図れるよい場の提供にもなるのではないかと考えています。



▲コンテスト後の交流パーティー

外国人の意見発表の場の提供

「外国人による日本語スピーチコンテスト&交流パーティ」を開催してもう15年になります。もともとは学内のみでの独自のスピーチコンテストは行っていたのですが、どうしても範囲が狭いので、外部の人も加わっての規模を拡大した日本語スピーチコンテストを企画したいと考えていたところ、足利市国際交流協会から話があって、現在のような形になりました。一応、形式的には参加者は20名枠ということで企画しているのですが、応募者全員に発表してもらうようにしています。発表終了後、審査時間がありますが、毎年、アトラクションを入れて来場者の方々にも楽しんでいただいている。今年は足利のフラメンコグループによるフラメンコの披露をしていただきました。これは足利市国際交流協会からご紹介していただいている。交流パーティーも足利市国際交流協会で企画し、ゲームを入れたりいろいろなアイデアで発表者と来場者の方々と一緒に楽しめるようなイベントになっています。発表者への賞についてですが、学校と協会とそれぞれで、主催者賞を出しています。また、参加された方全員に記念メダル等も差し上げたりしています。



▲フラメンコグループによるアトラクション

足利市国際交流協会からの声

事務局長前原錦一郎氏に開催の主旨等について聞きました。

もともと足利市国際交流協会で事業計画を考えていたときに、足利コミュニティーカレッジが日本語スピーチコンテストの規模拡大で交流パーティーも同時に開催したいという話を聞き、それならなら、ぜひ共催という形で交流会部分を協会が負担して、協会の企画も入れながら行ったことが15年も迎えられたわけです。今年は15回目記念ということで事業内容等も少し中身の濃いものに仕上げました。

県内の外国人数が3万人を越えた現在、日本語を学習している外国人も増えてきています。

そして日本語が上手な外国人も増えています。各市町、民間交流団体や日本語学校などでは「日本語スピーチコンテスト」、「日本語弁論大会」等名称や交流の方法はさまざまですが、外国人に日本語の能力を発揮する場を提供するという主旨は同じです。

今回のやあ!特集ではここにスポットを当てて実際にスピーチコンテストを行っている団体にお話を伺ってみました。

君島 利一さん



(さくら国際フレンドシップクラブ会長。国際交流事業の一環として「さくら市から世界が見える」と題した日本語スピーチ大会と国際交流の集いを毎年開催している。)

スピーチコンテストとは違うスピーチ大会

このスピーチ大会は今年で10回目ですが、さくら市としては2回目になります。さくら市フレンドシップクラブでは日本語教室を行っており、当初はその発展の形として生徒たちに自主的に参加出場してもらおうと思って企画しました。当初は、10名ほどの発表者がいた大会でしたが、現在は5名に減らしました。その理由としては、会員からスピーチコンテストもやりたいとの意見もあり、もともと料理を得意としている会員がメインになり、外国人に日本の料理を紹介する料理教室も開催していました。そのため反対に外国文化の紹介事業をしてはとの意見もあり、スピーチコンテストという形式ではなく、「外国人の目から日本のこと話をしてもらう会」とし、それに外国の歌や踊りなど外国文化の紹介をプラスした事業としたのです。ここ数年、毎年外部の団体に依頼し、アトラクションの出演をお願いして好評を得ています。

スピーチ大会自体も年々変化してきました。異文化理解をメインとしたものとして、昨年度からは、県立氏家高校(現さくら清修高校)の演劇部による日本文化の紹介寸劇が加わりました。高校生がいろいろお手伝いしてくれて、年ごとに、この事業も市民の方々に定着しつつあります。



▲氏家高校演劇部による寸劇

来場者数が気になる

苦労している点と聞かれたらいろいろ意見が出てきそうですが、会員のほとんどが家庭の主婦や退職者が中心のボランティア活動ですので、それぞれの特技を活かした形で協力をもらっています。たとえば、趣味が写真撮影という会員には会場のカメラ撮影を担当してもらい、茶道や日本舞踊を習ったことがあったり、資格を持っている人には、そのような文化紹介を、料理が得意な方には調理をしていただき、22名の会員の協力で作り上げている事業です。

今一番悩んでいるのは、来場者の把握です。一応、市の広報等でPRしていただいて、毎年300人くらいの来場者数は確保できていますが、当日ぎりぎりまで心配になってしまいます。多くの人に見に来ていただくために今後の課題として、来場者の方々がただ見に来るだけでなく、来て一緒に外国の方と楽しんでいただく会にしたいと考えています。今年はとりあえず、テスト的に出場者の方に「外国で動物はどう鳴くのか」等のクイズをしてみたのですが、大変好評だったので、今後もクイズなど来場者と共に楽しめるイベントにしたいと思っています。



▲今日はクイズもしてみま
した!!



▲スピーチ大会表彰式で

いいくらスピーチコンテストの変遷

会長 長門芳子さんにいいくら日本語スピーチコンテストを終了することについて伺いました。

2007年で20回を迎え、またいいくら創立25周年の輝ける年でもあります。これを機にスピーチコンテストを最後の年としたいと考えました。

私たちの日本語スピーチコンテストは、どちらかといえば、先駆的な事業でした。しかしここ数年、各民間団体、学校等で日本語スピーチ大会を行っているところも増えてきています。今後は、これらのバックアップを行っていきたいと考えています。

このコーナーでは、日本や海外で異文化に触れたときの写真を、そのときのエピソードとともに紹介します



▲JICA教師海外研修2007に栃木県から参加された4名の先生

写真を提供してくれたのは、JICA教師海外研修2007で今年の8月にカンボジアを訪れた4名の先生方です。JICA教師海外研修とは、国際理解教育に興味のある教員を対象に、短期の開発途上国での研修を行うプログラムで、帰国後は研修で得られた経験をもとに、実際の教育現場で国際理解、開発教育に関する授業を実践していくというものです。前回に続き、今回もパート2として、研修に参加された先生方がカンボジアで体験し、印象深かった写真を紹介していただきます。

カンボジアでの田植え体験

この写真は、私たちがタケオ州で田植え体験した時の様子です。カンボジアは70%が農業に従事しているという農業国です。農薬を一切使用していないため、カンボジアのお米はとてもおいしいです。日本がこの地で一本だけ稻を植える農法を指導したところ米の収穫が二倍になったそうです。自然の美しさと、犬や猫、鶏や豚や牛がのんびりしている姿が印象的でした。
(写真提供：宇都宮市立宮の原小学校 五十嵐伸江教諭)



カンボジアトラスト

写真は訪問した際のカンボジアトラストです。カンボジアが内戦や地雷という悲しい過去を乗り越えて生きるパワーを感じました。
(写真提供：大田原市立金田北中学校 坂爪真奈美教諭)

このコーナーで紹介する写真とエピソードを募集しています。
詳しくは、協会までお問い合わせください。（☎028-621-0777）

Report レポート

コミュニティー通訳セミナー開催

栃木県には3万人を越える外国人が暮らしている。在住外国人が直面する言葉やコミュニケーションの壁の橋渡し役の「コミュニティー通訳」を養成する講座を平成19年11月10日(土)～12月15日(土)の期間、計4回開講した。

第1回 「多文化共生社会とコミュニティー通訳」

千里金蘭大学の水野真木子准教授を講師に迎え、コミュニティー通訳の概要、現状との課題、通訳の心得や技術などをパワーポイントを使って講義された後、コミュニティー通訳擬似体験を行うワークショップを行った。
シャドウイングと呼ばれるトレーニングは受講者も今までしたことのない体感トレーニングで大変刺激になっていた。



▲コミュニケーション通訳って…

第2回 「外国人と法律」

東京の大木和弘弁護士を講師に招き、在住外国人が抱えている法律問題、通訳が活躍する場面、知っておきたい制度や知識などを経験や体験から専門的な豊富な知識で話していただいた。また講義の後は、通訳実践者による活動体験談ということで、実際に通訳で活躍されている4名の方々から、苦労されている点などを話していただき、最後に設けた質疑応答の時間では活

発な意見の交換が行われていた。

第3回 「外国人と医療」

NPO法人多言語リソースかながわ事務局長の松延恵さんを講師に招き、医療通訳をする際の心得や外国人が抱える医療問題、通訳者に望むことなどを実際の通訳体験談を例に、寸劇の形式で悪い例



▲通訳シミュレーションの1コマ

をメインにTIAスタッフに演じてもらい、受講者とともに様々な角度から考えたり、改善点を見出したりした。後半の実践通訳体験コーナーでは3つの例についてどのように解決すべきかグループで話し合いながら答えを受講者が探していた。

第4回 「外国人と災害」

NPO法人多文化共生センター東京の田中阿貴さんを講師として迎え、震災の経験から通訳が活躍する場面や知っておきたい制度や知識、災害時に地域で求められる人材と役割などを細部にわたるまで教えていただいた。また、災害時の翻訳ボランティアの注意事項である翻訳3大原則「早く」、「見やすく」、「わかりやすく」についても詳しく教授していただいた。その後行われた翻訳体験ワークショップでは、実際に県内で地震が起こったと想定したプログラムで、問題点、通訳のやり方を被災者と通訳ボランティアというロールプレイングで行ったりと、今後起こりうる災害のシミュレーションということもあり、受講者も真剣に取り組んでいた。

第21回わいわい地球っ子クラブ～わいわいクリスマス～

2007年12月8日（土）に第21回「わいわい地球っ子クラブ」を行った。今回参加したのは、小学3年～6年生までのわいわいの会員21名。今回はクリスマス会ということで、栃木県海外技術研修員5名（カンボジア、ブラジル、中国）が、それぞれの国の紹介やゲーム、遊びを披露した。カンボジアの研修員は、カンボジアの踊りを紹介し、みんなで輪になって踊って楽しそうだった。また、ブラジルの研修員はパワーポイントを使ってブラジルの紹介を行った。日本とブラジルのジェスチャーの違いを紹介し、子どもたちも実際に、まねしながらお互いにやってみた。中国の研修員は動物の鳴き声の違いなどを説明したり、中国の折り紙で船を作ったり、中国にもあるあやとりを紹介したり、中国の子どもの遊びを紹介したりした。最後に松ぼっくりを使ったミニクリスマスツリーを子どもたちが作ってデコレーションをして楽しんだ。

Club lycée 「クラブリセ」 第39回ミーティング「なるほど世界はおもしろい！中国・ブラジル編」

2008年1月26日（土）とちぎ国際交流センターでクラブ・リセ第39回ミーティングを実施した。ゲストは昨年9月から栃木県海外技術研修員として栃木県環境保全課で研修している劉瑜（りゅうゆ）さんと北関東総合警備保障で研修している大貫ミシェリさんの2名。



今回は中国とブラジルについて思わず「へえ～」と思ってしまうような内容。劉さんはまず、中国の概況、文化、学校、北京オリンピックについて話してくれ。同じ漢字でも意味が違うものや、学校生活ではジャージが制服となっていること。パーティーなどで拍手で迎えられたとき拍手で応えることや結婚しても姓が変わらないなど日本とは違う点を教えてくれた。また、ブラジルから来たミシェリさんは、ブラジルといえば全員サッカー好きと思われるが、男子には人気があるが女子はあまり好きではないことや、リオのカーニバルはサンバグループから服を買えば誰でも参加できること、またブラジル特有の動物の紹介など今まで知らなかつたことも学べたようだ。その他学校生活ではピアスや髪型、染髪はOKであることや修学旅行はないなど日本の学校とは違った面もわかった。今年は日本人のブラジル移民100周年ということでブラジルでは盛大なイベントがあるそうだ。

国際理解への扉／書のへ越画獨國

「～世界が変わる、私が変わる～ JICAボランティア」

2008年の年明けとともに、JICAボランティアの皆さんがそれぞれの派遣国に出発しました。出発前の2007年12月18日（火）には栃木県庁や栃木県国際交流協会、下野新聞社を表敬訪問し、派遣国や活動内容などについて意見交換が行われました。栃木県知事の表敬では「皆さんの技術を活かして、大いに成果をあげてきて欲しい。活動を通して日本と栃木県の良さを大いにアピールし、そして元気に栃木県に帰って来てください。」と激励を受けていました。

＜シニア海外ボランティア＞

●青柳正樹さん（フィジー・漁業技術教育）

要請先の希望に沿るように努力し、和気あいあいとやっていきながら、私の要望も取り入れてもらい2年間楽しく過ごしたいと思います。

●塩入宏行さん（チリ・剣道）

HOWではなく、剣道のWHY（理合）を教え、日本武道の修行法に則って鍛えたい。2年後のブラジルでの世界大会でチリチームの存在感を示したい。

＜青年海外協力隊＞

●鈴木有佳里さん（ケニア・エイズ対策）

現地の方々と楽しく生活してみたいと思います。HIV/AIDSは日本でも広がり続けています。ケニアでの対策を日本でも生かせるよう頑張ってきます。

●加藤絢子さん（グアテマラ・手工芸）

いろんな人と色を通して、植物の命を通していろんなことを感じながらつながっていきたいと思います。



▲いってきます～♪

これまで皆さん日本で経験してきたことを海外に舞台を移して生かしてみませんか。

それはきっと、あなたの心も満たす素晴らしい経験になることでしょう。

お問合せは下記に

TIA内JICA栃木デスク 知久志穂子（☎028-621-0777）

★JICAボランティア春募集説明会★

（春募集 4月8日～5月23日）

	青年海外協力隊 (20～39才)	シニア 海外ボランティア (40～69才)
4/19 土 小山市立 生涯学習センター	14:00～16:00	10:30～12:30
4/26 土 とちぎ国際 交流センター	14:00～16:00	10:30～12:30

TIA Information Corner

TIAの国際理解クラブ 会員大募集!!

高校生のための

● Club lycée

参加者からのアイデア大歓迎!
国際的視野を身につけよう!!

活動内容 参加型セミナー、外国人との交流など

活動回数 年6回程度

年会費 無料

小学3~6年生のための

●わいわい地球っ子クラブ

同じ地球で生活する仲間として、
一緒に世界を学ぼう!!

活動内容 ゲーム、料理、工作、
外国人との交流など

活動日 6・9・12・3月の土曜日(年4回)

年会費 1,000円

お問合せ (財)栃木県国際交流協会

☎028-621-0777

賛助会員募集 !!

(財)栃木県国際交流協会(TIA)では、賛助会員を募集しています。皆さまからの賛助会員費は、TIAの様々な事業に使わせていただき、地域の国際化に役立っています。

会員の特典: ●TIA主催・共催等の各種イベントやセミナー等の情報提供。 ●TIAニュース「やあ!」を年4回送付。 ●会員証の提示により指定店の旅行企画商品および海外旅行用品の割引 ●ビデオ録画方式変換(海外↔日本)の無料サービス ●団体賛助会員には、とちぎ国際交流センター利用の場合、予約は2か月前から先行受付(通常は1か月前より受付)。

年会費:個人 3,000円

団体 10,000円

法人 30,000円

TIA法律・精神保健相談のご案内

TIAでは、通常相談のほかに、下記のとおり、栃木県弁護士会、栃木県精神保健福祉センターとの協力を得て、弁護士による法律相談及び、専門職員による精神保健相談を行っています。

外国の方や外国の方との関わりでお悩みの方は、お気軽にご相談ください。相談は相談専用の個室で行われ、秘密は厳守します。

どちらも無料で、予約が必要です。

※法律相談

毎月第1火曜日 10:00~12:00

※精神保健相談

毎月第1・3火曜日 15:00~16:00

外国語の対応はご相談ください。

相談のお問合せ(相談専用電話)

☎028-627-3399

新規賛助会員の方々

個人:佐倉 等様、金子やよい様、
青木 和之様、上崎 純一様、
佐藤 康夫様

～ご入会ありがとうございます～

財団法人栃木県国際交流協会は、特定公益増進法人(寄付金の損金算入等の課税特別措置)の認定を受けています。当協会の事業にご賛同くださる各企業、団体等からのご出捐をお願いいたします。

〈TIAからのお知らせ〉
とちぎインターナショナルフェスティバル2008

は、10月4日(土)に開催予定です。



You can select from some Media.

株式会社 松井ピ・テ・オ印刷

本社 / TEL 321-0904
栃木県宇都宮市陽東五丁目9番21号
URL <http://www.pto.co.jp/pto/>
E-mail s@pto.co.jp
tel. 028 (662) 2511 (FAX)
fax. 028 (662) 4278



TIA ご案内図



編集・発行 財団法人栃木県国際交流協会
住 所 〒320-0033 宇都宮市本町9-14 とちぎ国際交流センター内
TEL 028-621-0777 (代表) 028-627-3399 (相談専用)
FAX 028-621-0951
業務時間 8:30~17:15
休 館 日 日曜・月曜・祝祭日及び12月29日から1月3日